

2回目のオンライン朝礼

3月7日(月)に今年度最後の朝礼をオンラインで行いました。3日(木)の卒業式が終わり、4日(金)から修了式の24日(木)までは、1・2年生だけの学校になります。卒業生は、2年以上のコロナ禍に耐え、辛抱して困難を乗り越える力をつけました。卒業式はそんな力と感謝の気持ちが合わさって、とてもすばらしい、感動的な式でした。1・2年生には、卒業生のよいところを受け継ぎ、さらに自分たちのよいところを伸ばしてほしいと思います。暁中の合言葉である「時を守り、場を清め、礼を正す」「凡事徹底」のもと、今年度を締めくくる生活を心がけ、修了式、進級を迎えてほしいと思います。以下、卒業式での送辞と答辞を載せます。



○ 送辞

厳しい寒さのもと、なんども雪が降り積もった長い冬も終わりが見え、ぽかぽかと暖かい日差しから、春の訪れを感じるようになりました。このよき日に、暁中学校を卒業される119名の先輩方、ご卒業おめでとうございます。先輩方との関わりは、新型コロナウイルスの影響で、決して多いと言えるものではありませんでしたが、その分、一つ一つが今でも深く思い出に残っています。そんな思い出の中にあるのは、強く、優しい先輩方の姿ばかりです。



私たちが、先輩方と多くの時間を共に過ごしたのは部活動でした。いつも明るく声をかけてくださり、部の雰囲気をもてなしてくださりました。先輩方が楽しそうに活動している姿を見ると、自分も仲間と励まし合い、楽しい気持ちで頑張ろうと思うようになりました。大会や試合で、精一杯力を出し切る先輩方はとてもかっこよく、諦めない心の強さと、後輩へ思いをつなぐ意志の強さを感じました。そんな憧れの先輩方に少しでも追いつけるよう、そして追い越せるよう、教わったことを生かし、これからも頑張りたいと思っています。また、このような状況の中で行った学校祭や修学旅行などでは、計画していたことも思うようにできず、悔しい思いをされたと思います。それでも、今できることに一所懸命取り組み、かけがえのない思い出を作られたことは、私たちにとって大きな励みになりました。

ついに、先輩方との楽しかった日々も終わりを迎える日がきてしまいました。先輩方が作ってくださった、笑顔あふれる明るい暁中学校を、今度は私たちが守り続けていきます。

これから、先輩方は新たな環境で、未来へ向かって進んでいかれることと思います。新しいことはかりで不安になることもあるかもしれませんが。そんな時は、3年間共に過ごした仲間や、暁中学校で過ごしたかけがえのない時間を思い出してください。不安になっても立ち止まらず、「躍進」し続けてください。憧れの先輩方は、いつまでも私たちの心の中に残っています。暁中学校で、先輩方に出会えたことを本当にうれしく思います。先輩方のさらなるご活躍をお祈りしています。

○ 答辞

一日ごとに、私たちの周りの景色が春色に染まっていく季節となりました。私たちは今日、この暁中学校を卒業します。こうして静かな体育館にいと、入学した日のことを思い出します。3年前の4月、新しい制服を着て、入学式に参加しました。当時の私は周りの友達に比べ、何も変わっていない自分に焦りを感じていました。でも、そう感じていたのは私だけだったのかもしれない。周りには新しい友達ができて、楽しそうでした。部活も始まり毎日が充実しているように見えました。

9月になり、初めての文化祭がありました。私は新しいことにチャレンジしようと思い、合唱リーダーに立候補しました。人と関わるのは苦手だけれど、合唱なら何とかできるし、リーダーになったら自分の中で何かが変わるかもしれないと思いました。でも、私は自分の意見ばかりを周りに押しつけて、クラスをまとめることができませんでした。私は自分に足りないものは何だろうと真剣に悩みました。年が明け、2月になると、3年生を送る会や卒業式の練習が始まりました。今度こそチャンス

だと気持ちを切り替えました。しかし、新型コロナウイルスの流行によって、すべてが消えてしまいました。私は正直学校が好きではなかったけど、いざ行けなくなると寂しい気持ちになりました。みんなに会えなくなって一人で過ごすことが多くなりました。何をしても気が乗らなくて、ただ時間だけが流れていく気がしました。改めて学校の大切さを知りました。休校が明けたら2年生になる。これからは周りのみんなと一つずつ頑張っていこうと次第に思えるようになりました。



6月、久しぶりに登校したとき、マスクをしている友達を見て、それでも以前のようにできないことを実感しました。「コロナ禍」という厳しい状況での新しい生活が始まっていきました。突然2年生になった私たちは、何をしたらよいのか戸惑うことがたくさんありました。そんな時、私たちは3年生の先輩方を手本にしました。そして、自分たちも同じようにやってみようと思いました。先輩方が、何事も本気だったように、失敗したと思っても絶対に諦めず、真剣に向き合うようにしました。だから、体育祭のあと、仲間とお互いの健闘をたたえあうことができました。私たちは頑張っただけでよかったと心から思えました。そんな思いを胸に、私たちは最高学年となりました。3年生で初めての大きな行事が学校祭でした。文化祭の合唱では、1年生のときのリベンジをするため、アルトのパートリーダーに立候補しました。練習では、1年生のときの反省を生かし、パートの子の意見を聞き、一緒に考えることを大切にしました。以前よりずっとうまくできた気がします。それが自分のやり方だと気づきました。時には、パート内やパート同士で意見が食い違うこともありましたが、その言葉の端々から「最高の合唱に仕上げたい」という真剣さが伝わってきてうれしかったです。文化祭当日は、「優勝」という目標のもと、それぞれのクラスが一丸となりました。体育祭も、仲間と声をかけ合ったり応援したりして、みんなで盛り上がり楽しむことができました。10月には、延期していた修学旅行に行きました。学校祭の熱は冷めず、友達同士で、クラスで、学年でおもいっきり楽しむことができました。そこで、私たちは仲間の新たな一面を見ることができました。無理をせずありのままの自分でいられるのが、本当の仲間だと改めて知ることができました。

私たちの3年間を振り返ったとき、「成長」という言葉が浮かびます。「具体的に何か」と尋ねられても「これ」とは言えませんが、あえて言うなら「雰囲気」だと思います。憧れてきた先輩方がもっていたように、自分たちの「色」をつくることができたのだと思います。私たちは中学校の3年間で、思ったことを遠慮せずアドバイスをし合い、高め合えるようになりました。お互い、「信頼」を積み重ねていったのだと思います。私自身は、「挑戦」する勇気をもてるようになりました。私は小学生のときにはできなかった生徒会や、合唱リーダーにも挑戦できるようになりました。自分のやり方を見つけ、仲間からも多くのことを学びました。勇気をもてるようになったのは、私に何度も変わるきっかけを作ってくれた先生方、私が悩んでいるときにどうしたらよいか一緒に考え、背中を押してくれた仲間、困っている人を見たら手を貸すことを教えてくれた先輩、どんなささいなことでもいつも向き合って話を聞いてくれた家族のおかげでした。

私たちが「成長」しようと前向きになれたのは、先生方がいてくれたからです。コロナ禍でありながら、たくさんの行事に取り組みせていただきました。その行事こそが私たちにとって、変わろうと思えるきっかけでした。家族へ。いつも私のことを気にかけてくれてありがとう。母さん、毎日、「学校はどうだった」と聞いてくれてありがとう。1年生の何をしてもうまうまかかなかった頃、何気なく言った言葉だから、たぶん聞き流すだろうと思っていたのに、母さんは私の話を聞いて、私の悩みに真剣に寄り添ってくれました。そのたび私は心が軽くなりました。ちゃんと私の居場所があるから、学校でも頑張ろうと思えました。3年生のみんなへ。一人でいた私に気さくに話してくれた。正直な思いをずっと言ってくれた。私の思いをずっと受け止めてくれた。お互い自分の思いに素直になれたから、高め合えたんだと思う。悩んでいるときには一緒に考えてくれた。それでも難しいときは、周りの子を巻き込んで考えてくれた。だから、私は逃げ出さず頑張れた。みんなは何気なく手を差し延べてくれたと思うけど、それが私にとって大きな助けで支えだったんだ。きっと、みんながいてくれたから、私は変わったんだと思う。3年間、一緒に過ごしてくれて本当にありがとう。

最後になりましたが、今まで支えてくださった方々に感謝し、さらなる暁中学校の発展を願い、参加できなかった在校生に思いを託して答辞といたします。

○ 伝達表彰

・ 吹奏楽部

2021年度中部日本個人・重奏コンテスト西尾張地区大会

アルトサキソフーン独奏 金賞 ・ トランペット独奏 銀賞

クラリネット独奏 銀賞 ・ 打楽器三重奏 銀賞 ・ 木管三重奏 銅賞

・ 令和3年度明るい選挙啓発ポスター 佳作 2年生1名

